

写真芸術の時代

●特別展
大正期の都市散策者たち

OHTAGRO MOTOWO
大田黒元雄

FUKUHARA SHINZO
福原信三

FUKUHARA ROSO
福原路草

KAKEFUDA ISAO
掛札 功

ISHIDA KIICHIRO
石田喜一郎

"SHASIN GEIJUTU" - Photography Art
The 5 Flaneurs in Tokyo 1921-24

1998 12/8 TUE 火 → 1999 1/31 SUN 日

主催 渋谷区立松濤美術館

協賛 SHISEIDO

休館日 12月13日(日)、14日(月)、21日(月)、24日(木)
28日(月)～31日(木)、1月1日(金)～4日(月)
10日(日)、11日(月)、18日(月)、25日(月)

開館時間 午前9時～5時(入館は4時30分まで)

入館料 一般300円、小中学生100円
(65歳以上の方及び障害者の方は無料)

渋谷区立松濤美術館

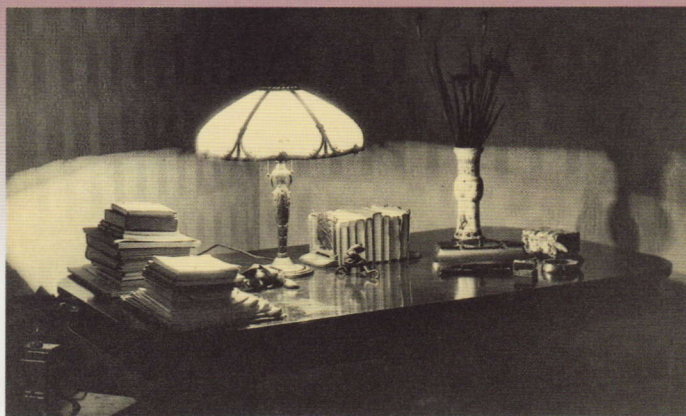
The Shoto Museum of Art

渋谷区松濤2-14-14 京王井の頭線神泉駅下車徒歩5分
TEL 03-3465-9421 FAX 03-3460-6366

大正10(1921)年の東京で、福原信三、大田黒元雄、掛札功、福原路草たちが同人となって、「写真芸術社」を結成しました。彼らモダンボーイたちはカメラを携えて、近代都市へと急成長を遂げつつあった東京を徘徊しました。そこで写真でなくてはとらえられない街のディテールを見つけ出し、自分のメランコリーや孤独感をこめて、モダンな写真作品を作り出したのです。ソフト・フォーカスやセピア調色、余白を生かして大胆に平面化した構図、独創的なカメラアイによる、彼らのストレート・プリントは、写真独自の表現を確立するようアピールするもので、当時の写真界に大きな反響を呼びました。

工夫を凝らした雑誌「写真芸術」を発行し、展覧会を行って、時代の先端を切っていた写真芸術社の活動は、石田喜一郎が新しい同人として加わった直後に、関東大震災で思いがけず終局を迎えました。わずか3年たらずの「写真芸術社」の実は、その後、日本写真会へと引き継がれて行きましたが、日本の近代写真の歩みにひとつの時代を画したといえるものです。本展では、長らく忘れられていた「写真芸術社」を初めて本格的に取り上げ、新発見のヴィンテージプリントを中心に、資料と出版物で彼らの全貌を紹介いたします。どうぞご覧下さい。

“SHASIN GEIJUTU” - Photography Art The 5 Flaneurs in Tokyo 1921-24



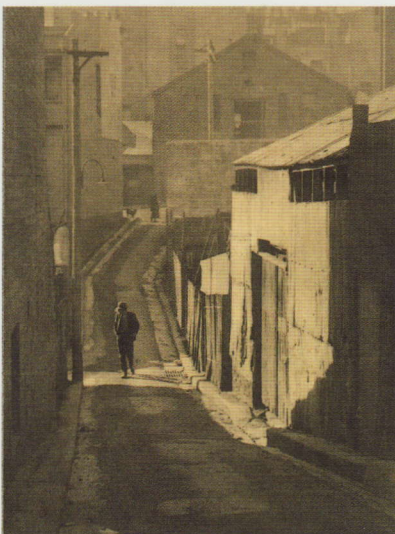
〈夜〉掛札功 1923
ゼラチンシルバープリント 渋谷区立松濤美術館寄託



〈諏訪湖〉掛札功 1923
ゼラチンシルバープリント 渋谷区立松濤美術館寄託



〈広告板〉“巴里とセイン”より 福原信三 1913-21
ゼラチンシルバープリント 渋谷区立松濤美術館寄託



〈露地〉石田喜一郎 1923
ゼラチンシルバープリント 渋谷区立松濤美術館寄託



〈大ろじ〉大田黒元雄 1921
ゼラチンシルバープリント フォト スカラベ 佐久間写真コレクション

●講演会

モダンボーイたちの写真的発見
12月12日(土)午後2時より
講師 澤本徳美氏(日本大学教授)

●美術映画会

12月27日(日)2時より
マルセル・デュシャン事件
1月23日(土)2時より
アンディ・ウオーホル

●美術相談

12月26日(土)2~4時
講師 佐久間公憲(油絵)
北尾和子(水彩)
1月9日(土)2~4時
講師 遠藤原三(油絵)
新出紀久雄(水彩)

●案内図

